

エレクトラ

2005(平成17)年5月11日鑑賞(東宝試写室)



監督＝ロブ・ボウマン／出演＝ジェニファー・ガーナー／ゴラン・ヴィシュニック／キルステン・ブラウド／テレンス・スタンブ／ケリー・ヒロユキ・タガワ／ウィル・ユン・リー／クリス・アッカーマン／ナターシャ・マルテ／ボブ・サップ (20世紀フォックス映画配給／2004年アメリカ映画／98分)

……エレクトラとは『デアデビル』(03年)から生まれた新しい女戦士の名前。格闘技の達人であるうえ、卓越した予知能力を最大の能力として身につけた彼女は、「サイズ」を武器に真紅の衣装に身を包んで「ザ・ハンド」軍団(?)と対決! そりゃカッコいいキャラクターだが、やっぱり所詮はアメリカンコミックのネタ……?

エレクトラとは?

エレクトラとは『デアデビル』(03年)の中に登場する女戦士の名前。また、『デアデビル』とは有名なアメリカンコミックを映画化したもので、その主人公はマット・マードック(ベン・アフレック)。

このマットこそ、昼は弁護士の仕事をしながら夜は司法の目をくぐり抜ける悪党たちを退治するヒーロー、デアデビルだった。そのマットの恋人がエレクトラ。彼女は格闘技の達人だったが、ある誤解の中でこの2人が闘うことになり、エレクトラは死亡……?

そんなエレクトラを「蘇生」させたのは恩師のスティック(テレンス・スタンブ)。これによってエレクトラが新たに独立したキャラの主人公として誕生することになったわけだ。これは、日本版で言えば『交渉人 真下正義』(05年)が『踊る大捜査線』シリーズから新たに独立した主人公として誕生したのと同じだ。そんなエレクトラに扮するのは『デアデビル』の時と同じジェニファー・ガーナー。さてその活躍のほどは……?

そのキャラクターは？

エレクトラが恩師スティックから学んで身につけたのは卓抜した武術の他、類まれな予知能力。これが彼女の最大の能力だ。そして彼女の武器は、「サイズ」と呼ばれるフォークのような先が3つに割れているダガー・ナイフ。しかもこれを左右の手で自由に操る「二丁サイズ」だ。

さらにエレクトラのキャラを最も強く印象づけるのがその真紅の衣装。これはアメリカンコミックのキャラをそのままスクリーン上に反映させたものらしいが、そりゃ何ともカッコいい。ジェニファー・ガーナーの美貌と武術で鍛え抜かれた肉体は、そのカッコいい歩き方も含めて、色気だけではなくホントに美しい。

ハル・ベリーが演じた『キャットウーマン』（04年）は、ネコのような身のこなしと豊富な肢体が売り物（？）だったが、カッコ良さから言えば、ジェニファー・ガーナーの『エレクトラ』の方が上……？

他のキャラクターは？

女戦士エレクトラの敵は「ザ・ハンド」で、その親分はローシ（ケリー・ヒロユキ・タガワ）。そしてキリギ（ウィル・ユン・リー）はその息子だが、これがかなりの過激派……？ さらにキリギが率いるケツタイなパーソナリティの部下たちが、超獣使いのタトゥ（クリス・アッカーマン）、死の女神のタイフォイド（ナターシャ・マルテ）、そして鋼のビーストのストーン（ボブ・サップ）たち。そのマンガみたいな（？）キャラクターとその闘いぶりは映画を観てのお楽しみだが……？ さらにもうひとつ、ニンジャ集団の「ザ・チェイスト」もいる……。

ストーリーの核は？

アメリカンコミックから生まれた女戦士エレクトラのキャラを中心として描く映画だから、ストーリーはシンプルな方がいい……？ そこでこの映画のストーリーの核となるのは、父親のマーク（ゴラン・ヴィシュニック）とその13歳の娘アビー・ミラー（キルステン・プラウド）の2人。エレクトラは恩師からこの父娘を殺せと命じられてその任務を遂行しようとしたのだが、実は……？ この2

人がストーリーの核。とりわけ13歳のアビーの正体は……？

女戦士あれこれ

最近カッコいい女戦士モノ(?)が多い。その代表は何といても、クエンティン・タランティーノ監督の『キル・ビル～KILL BILL～』Vol.1・2(03・04年)で、これはユマ・サーマン演ずるブライドの復讐物語(『シネマルーム3』131頁・『シネマルーム4』164頁参照)。そして、ミラ・ジョヴォヴィッチ主演の『バイオハザード』シリーズ(01・04年)やアンジェリーナ・ジョリー主演の『トゥームレイダー』1・2(01・03年)がある。さらに女3人が主役として登場する『チャリーズ・エンジェル』シリーズ(00・03年)も。

これらはそれぞれカッコいい美女が登場するので、ストーリーが多少まずくても、あるいはその設定が多少ケツタイでも、「まあいいか」と許せる面が多いが、やはりアメリカンコミックものは所詮マンガ的……？

その意味で、『バイオハザード』やこの『エレクトラ』での状況設定や闘いぶりよりは、『キル・ビル』や『トゥームレイダー』の方が上だが、主人公の美しさとカッコよさ勝負となれば、さてあなたは……？ 2005(平成17)年5月12日記

ミニコラム

日本の女戦士は？

男女平等の国アメリカ(?)の映画には女戦士がたくさん登場するが、日本にはいない。たしかに、今の日本では太モモ剣士の「あずみ」(上戸彩)だけ……？ しかし日本にも、70～80年代にかけて、志穂美悦子という美人にして本格アクション女優がいた。そのデビュー作は『女必殺拳』(74年)。麻葉シンジゲートに乗り込んで悪いやつらと対決するカッコいい拳法はホレ

ボレするもので、続編が次々と。また『柳生一族の陰謀』(78年)では千葉真一扮する柳生十兵衛の妹、茜を演じたが、宝塚バリの男装の女剣士姿は実にカッコよく、人気急上昇！ 拳法も剣法もこなす彼女ならエレクトラはもとより、「キルビル」のブライドにも負けない……？

2005(平成17)年7月12日記